



アルベール・マルケ 《裸婦》(通称フォーヴ風裸婦)
1899年 ボルドー美術館蔵

ピカソ、マティスと20世紀の画家たち —フォーヴィスムとキュビスム—

topics

- 特集：ピカソ、マティスと2つの美術運動
浮世絵花盛り／勅使河原蒼風とその周辺
本年度の展覧会
- 連載：ボランティア日和 / 展示室で考える

美術館に寄せられる期待

今年の桜は開花が早く、その後しばらく冷え込みが続いたせいか、花が長く保たれました。花盛りのみごとさには格別のものでありました。

当館では、陽春のこの季節に合わせて、「浮世絵花盛り」と題する新年度最初の特集展示を試みてみました。第一部は「溪斎英泉」、第二部は「肉筆浮世絵」と、会場をフロアごとに分けて、浮世絵ならではの魅力をたっぷり味わっていただくというものです。

溪斎英泉という浮世絵師は、江戸時代後期の19世紀前半、文化・文政から天保年間にかけて、独自の美人風俗画を描き続けて活躍しました。当時は、国貞、国芳、広重らを擁する歌川派が全盛で、「歌川派にあらざれば浮世絵師に非ず」といわれるほどでしたが、そのなかで葛飾北斎とともに敢然とこれに対抗した、野党的立場のユニークな存在でした。先祖は木更津周辺の出身ということで、もともと房総ゆかりの人でもありましたが、それとは別に千葉市や当館とは深いえにしで結ばれていました。

思い起こすと今から18年前の昭和61(1986)年に、千葉市立郷土博物館で「浮世絵にみる江戸文化 化政期の英泉・国貞を中心に」とう特別展が開催されています。企画を担当したのは現在当館の学芸課長を務めている浅野秀剛さんでした。そこに展示された溪斎英泉の作品のうちの主要なものは、その直前に千葉市が購入した、もと今中宏コレクションの一部でした。

今は亡き今中宏さんは、英泉の先駆的な研究者であり、熱心な収集家でもありました。その定評ある英泉コレクションをまとめて千葉市が購入できたのは、浮世絵学界の最高権威、榎崎宗重博士の仲介があったからです。私と千葉市との関わりも、この英泉画の購入にあたって収集審査委員を委嘱されたことに始まっています。お城の中の郷土博物館の一室で、浅野さんのお世話のもとに大量の英泉版画を見せられたことが、昨日のように思い出されます。美術館が開館したのはそれから10年ほど経って以

後のことでした。

さらに今中さんから若干の寄贈もあり、美術館独自の購入も加わって、当館の英泉画コレクションは今や世界でも指折りのものになっているのです。その偉容をいつの日か広く一般の方々にご覧に入れたいものと念願してきましたが、今回ようやくそれが実現の運びとなりました。泉下の今中氏、そして榎崎先生はさぞかし喜んでくださっていることでしょう。溪斎英泉の風俗画は、当時の生活の様相と美意識とを、如実にあらわし、代弁してくれるものですから、一図一図たんねんに見比べているうちに、いつか江戸の昔にタイム・スリップできるかも知れません。どうぞお楽しみ下さい。

第二部「肉筆浮世絵」の会場に並ぶほとんどの作品は、柏市にある寺島文化会館のコレクションに属するものです(ごく一部当館所蔵品を加えました)。財団法人寺島文化会館を設立、運営されている寺島家は、江戸時代に柏の名主をつとめた旧家で、有名な文人画家岡本秋暉も滞り、絵を揮毫したと伝えられています。数年前、お宅に残る秋暉の作品を拝見するためにお邪魔して以来個人的にもお近づきをいただいておりますが、その後特別展への出品にご協力いただいたご縁もあって、当館へ豊富な内容の江戸時代絵画コレクションを寄託していただけることになりました。今回はその内の肉筆浮世絵部門のお披露目ということになります。

5月下旬からは、「勅使河原蒼風とその周辺」と題する特集展示も企画しています。これもまた東京の財団法人草月会から昨年度寄託を受けた草月コレクションが中心となる予定です。

学芸員を初めとする館員諸君の日常活動が、館外の皆様の信頼をいただいてこうした寄託や、寄贈のお申し出が続き続けています。館員一同、心から感謝申し上げるとともに、その負託にお応えすべくますます精進することを誓うこのごろであります。

館長 小林 忠

ピカソ・マティスと2つの美術運動

2人の偉大な画家、パブロ・ピカソとアンリ・マティス。彼らは20世紀美術の流れを決定づけた美術家として、今日極めて高い評価を得ています。特に20世紀最大の画家としての地位を不動のものとしたピカソは、世界中で印象派に勝るとも劣らない高い人気を誇っています。日本でも毎年のように様々な「ピカソ展」が開かれ、多くの観衆を集めていることは、皆様もご存知でしょう。20世紀初頭のパリを舞台に、マティスはフォーヴィスム(野獣派)の中心人物、ピカソはキュビズム(立体主義)の創始者として、それぞれの運動を主導しました。美術史において、フォーヴィスム時代のマティス、キュビズム時代のピカソの作品は、彼らによる他の時期の作品よりも高い評価を受けています。それはこの時期の2人の作品が、彼らの周辺の



画家たちのみならず、ドイツ、イタリア、イギリス、ロシア、アメリカをはじめとする世界中の画家たちに非常に強い影響を与えたからです。世界中で無数のキュビストを生み出しただけでなく、1905～1920年頃のヨーロッパにおける美術運動のほとんどに何らかの影響を与えたといっても過言ではないでしょう。ピカソといえば青の時代の作品や《ゲルニカ》(1937)が人気ですが、それらは同世代や続く世代の画家たちにそれほど大きな影響を与えていないため、美術史上ではキュビズム時代の作品ほど重視されていません。

千葉市美術館で開催される「ピカソ、マティスと20世紀の画家たち」(5月22日～7月11日)は、ピカソ、マティスとその友人たちの作

アンリ・マティス《腰掛ける少女》
1909年頃 ルードヴィヒ美術館蔵

品と、2人から影響を受けた画家たちの作品を紹介する展覧会です。この展覧会に含まれる画家たちは全て、フォーヴィスムかキュビズムのいずれか(あるいは両方)に関係しています。そこで、このフォーヴィスムとキュビズムという2つの絵画運動がどのようなものであったかを、この場を借りて簡単に説明したいと思います。

フォーヴィスムは、日本語では「野獣派」と訳されます。保守的な批評家ルイ・ヴォークセルが、1905年のサロン・ドートンヌ展に展示されていたマティスたちの作品を「フォーヴ(野獣)」と評したことが語源となっています。原色を中心とした強い色彩と荒々しい筆触を用いたマティスの絵画は、当時の人々の目には、「野獣」のように粗野で野蛮に見えたのでした。

フォーヴィスムは、ゴッホ、ゴーギャン、セザンヌらポスト印象主義とスーラー、シニャックら新印象主義の直後に来る美術運動です。(ポスト印象主義は長い間「後期印象主義」と誤訳されてきましたが、近年専門家の中で「ポスト」の呼称が定着してきました。)当時の画壇で支配的だった印象主義に反旗をひるがえし、一世代前のゴッホ、ゴーギャン、シニャックに範を求めたのでした。

印象主義は、光や大気を含む視覚的印象を表現するために、植物は緑、空は青といった物の固有色を無視しました。彼らは、光や大気の状態だけで、植物が灰色に見え、空が紫に見えることに気づいたのであり、その意味では、自らの視覚に忠実に従っただけでした。フォーヴィストたちは、印象主義のこのような姿勢を浅薄とみなし、絵画は目に見える現実の単なる描写ではなく、もう一つの現実であると考えたのです。そしてゴッホとゴーギャンが、目に見える現実の色彩を超えて自由に色彩を用いていたことに着目しました。フォーヴの画家たちは、自分自身を強力に表現するために、自然本来の色彩体系を完全に無視し、極めて恣意的に色彩を用いたのです。1905年頃のマティスの作品を見ると、人の顔も衣装も背景も区別なく、空色、紫、緑、ピンクといった現実にはありえない色の組み合わせで描かれています。さらにマティスは、絵の表現力を高めるため、わざと技術上の未熟を装ったり、対象の形を歪めたりしました。

ポスト印象主義をより先鋭化したフォーヴィスムの絵画は、ゴッホ、ゴーギャンの作品に馴染んでいる方々にとっては、決して分かりにくいものではないはずですが、それらの絵画は、風景、肖像、静物といったフランス絵画の伝統に沿った画題を選んでおり、抽象化も進んでいません。

フォーヴィスムは、1905年頃に頂点を迎え、1909年頃までには事実上解体してしまいます。メンバーの多くもフォーヴ様式



モーリス・ド・ヴラマンク 《花束と果物のある静物》
1911年 ルートヴィヒ美術館蔵

を捨てそれぞれの道を歩んでいきますが、マティスをはじめとするごく少数の画家だけはフォーヴィスムから得た成果を生涯にわたり追求し続けました。

次にキュビズムへと話を転じましょう。キュビズムも、やはり語源から入ると理解しやすいかもしれませんが、この言葉の誕生には、他ならぬマティスが非常に重要な役割を果たしました。当時ピカソやブラックと親交のあったマティスが、キューブ(立方体)という言葉でブラックの作品を評したことがこの言葉の語源であると言われています。(キュビズムの形成と発展において、ジョルジュ・ブラックは、ピカソに勝るとも劣らない重要な役割を果たしたのでした。)したがってキュビズムは、「立体主義」と訳されることもあります。ピカソとブラックは、「自然を円筒形と球形と円錐形によって扱う」と言ったセザンヌの強い影響のもと、フォーヴィスムが終息しつつあった1907~08年頃、それと入れ替わるようにキュビズムを創始しました。

ピカソとブラックのキュビズムは、「初期キュビズム」から、「分析的キュビズム」、「総合的キュビズム」へと展開していきました。「初期キュビズム」は、静物や人物といった描く対象をキューブのような幾何学的な形態によって把握するもので、例えば人物像はあたかもロボットのように角張って描かれます。1910年頃に始まる「分析的キュビズム」は、複数の視点から捉えられた半透明の切子面が、わずかに後退しながら浅い絵画空間を形成していく手法です。この手法により、伝統的な遠近法を用いることなく、対象の立体性と容量を二次元の絵画平面上に表現することが可能となりました。1913年頃に始まる「総合的キュビズム」は、対象(ほとんど静物)を分解することで得られた面を、対象を示す何らかの表徴を加えつつ再構成する手法です。

ピカソとブラックのキュビズムは、何が描かれているか分からないほど抽象化が進んだ時期もありました。実際、ドローネーやクブカといった一部のキュビストは、キュビズムから抽象絵画を生み出しています。しかしピカソとブラックが、純粋な抽象画の領域に踏み込むことはありませんでした。注意深く観察すれば、彼らの絵画が静物や人物を具象していることが分かるはずですが、ピカソとブラックによる正統派キュビズムは、周辺の画家に多大な影響を与え、数多くの亜流や折衷的な作品、あるいは独創的なヴァリエーションを生み出しました。今回の展示では、そのようなキュビズムの多様な展開をご覧いただけます。

キュビズムの絵画は、何が描かれているのか分かりにくい



ジョルジュ・ブラック 《コップとヴァイオリンと楽譜》
1912年 ルートヴィヒ美術館蔵



フェルナン・レジェ 《双子》
1929/30年 ルートヴィヒ美術館蔵

けでなく、茶色や灰色などの暗い色調を多用しているために、フォーヴィスムの絵画に比べて馴染みにくいかもかもしれません。しかしキュビズムによる西洋絵画の伝統 - すなわち遠近法を用いたイリュージョニスティックで自然主義的な絵画空間 - の放棄は、20世紀の絵画史上極めて画期的な出来事でした。このことは逆に、キュビズムこそが、一般に分かりにくいとされる20世紀絵画理解の入口となりうることを示しています。難解な抽象絵画を理解する第一歩として、ぜひキュビズムの作品に挑んでみてはいかがでしょうか。

「ピカソ、マティスと20世紀の画家たち」には、マティスとピカソの作品を中心に、フォーヴィストとキュビスト21名による約100点の絵画が出品されます。フォーヴィスムとキュビズムという2つの重要な絵画運動を概観できるだけでなく、前衛芸術の中心地として繁栄したベル・エポック期のパリの息吹を感じていただけることでしょう。(学芸員 水沼啓和)

ピカソ、マティスと20世紀の画家たち

フォーヴィスムとキュビズム

2004(平成16)年5月22日(土) - 7月11日(日)

10:00 - 18:00 金曜日は20:00まで(入館受付は閉館の30分前まで)

【休館日】 毎週月曜日

【入館料】 一般 800(640)円
大学・高校生 560(450)円
中・小学生 240(200)円
()内は団体30人以上の料金

【主催】 千葉市美術館

【後援】 フランス大使館

【協力】 エールフランス航空

【企画協力】 ホワイトインターナショナル

【講演会】

「ピカソ、マティスと20世紀西洋絵画の出発」
6月20日(日)午後2時より 入場無料先着150名様
千葉市美術館・11階講堂
講師：太田泰人
(神奈川県立近代美術館学芸員[普及課長])

ボランティア日和 episode 3

前号の天野さんとは別の天野さんです。昨年度ギャラリートークをした展覧会の中から印象に残ったことを挙げて下さいました。今後のご活躍も期待しています。

ギャラリートークをして印象に残ったこと

昨年の4月から始めたギャラリートークは、ほぼ1年が経とうとしている。その中で、いくつか印象に残っていることを箇条書きにしてみたい。

その1 ホノルル美術館所蔵 浮世絵風景画名品展 (4/8-5/11)

日常会話で、「見当をつける」と使いますが、浮世絵の色摺版画で摺る位置を示す目印に使われることからきていると知って、新しい発見でもしたようにうれしくなりました。「見当」は、版木の右手前すみにカギ形、その左横、画面の十分の七ぐらいの所に一文字形に彫られたもの。摺師はこの2箇所の「見当」に紙を合わせることで、何色の版木でも正確に摺ることが出来た訳です。

その2 夢二・深水と大正の女たち (7/8-8/10)

竹久夢二の「宝船」は、正月の初夢によい夢を見たいと枕の下に宝船の絵を敷いて寝る習慣があった大正ロマン時代の版画で、ゴンドラの帆に鎌とお椀が描かれ、カマとワンで「カマワン」と言う意味で、江戸時代には鎌の絵に「ぬ」と書いて、着物の模様として流行している。江戸時代から明治にかけてこのような「しゃれ絵」が流行したと言う。いまもあるといいんですが。

その3 千葉美術散歩 - 人・もの・自然 - (9/20-11/24)

美術館のある場所は、かつて、蓮池と呼ばれた所だったそうです。千葉市は、大賀博士によって発掘された古代蓮が、3000年の眠りからさめ花が咲いて、大賀ハスと命名されて「千葉市の花」になっています。何か縁があった気がします。

その4 天津市芸術博物館展 (10/11-11/24)

絵画のいくつかの作品に、これを見たことを示す清朝皇帝の印章が押されていました。それは乾隆帝と宣統帝の印で、宣統帝はラストエンペラーの溥儀です。溥儀の実弟の愛新覚羅溥傑夫妻が昭和12年に半年ほど稲毛に居を構えていました。現在は、千葉市が保存し「千葉市ゆかりの家・いなげ」として公開しているようです。身近に感じた宣統帝の印でした。

美術館ボランティア 天野秀男

千葉市美術協会特別展 「秀作展」

千葉市民美術協会の秀作が一堂に展示されます

2004(平成16)年6月29日(火) - 7月11日(日)

9階市民ギャラリー

10:00 - 18:00 金曜日は20:00まで(入館受付は閉館の30分前まで)

【休館日】 毎週月曜日

【入館料】 無料

はなざか 浮世絵花盛り

今回「浮世絵花盛り」展では、今中宏氏がかつて収集した浮世絵師溪斎英泉の作品と財団法人寺島文化会館からご寄託いただいた肉筆浮世絵を主に展示しています。展示作品から何点が主だったものをご紹介します。

第1部「溪斎英泉」では旧今中コレクションの英泉作品から版画125点と版本14点、計139点を展示しています。大判三枚続の作品「秋葉常夜燈」(図1)は英泉が優れた作品を多く生み出していた文政5年(1822)頃の作品です。満月に照らされて三人の芸妓の影が地面に落ちるところは少し洋風というかモダンな印象を受けます。左端の芸妓の着物は秋を感じさせる薄の模様で、その帯は英泉が好んで描いた亀の模様です。版元上村与兵衛の「上むら」とその商標が提灯にも記されています。大判上下二枚続の「雲



(図1)溪斎英泉《秋葉常夜燈》
文政5(1822)頃 千葉市美術館蔵



(図2)勝川春章《雪月花 花》
天明(1781-1789)頃 寺島文化会館蔵

龍襦袢の花魁」はゴッホが模写したことで有名な作品です。ゴッホは版画を直接模写したわけではなく、雑誌『バリ・イリュストレ』の表紙に載った図を写したのですが、その表紙の図が裏焼だったため、花魁が逆向きになっています。ゴッホは「タンギー爺さん」(ロダン美術館蔵)の背景に「雲龍襦袢の花魁」を描いた他、「花魁(英泉を模して)」(ファン・ゴッホ美術館蔵)という作品も残しています。

第2部「肉筆浮世絵 寺島文化会館コレクションを中心に」では寺島文化会館所蔵の名品を中心に、肉筆浮世絵66点と版本12点、計78点で浮世絵の流れをたどります。勝川春章(1716~1792)が描いた「雪月花」三幅対(図2はそのうちの「花」)は今までほとんど知られなかったものです。春

章の「雪月花」は、同時代の風俗の女性で表したものが熱海のMOA美術館にあり、春章の傑作としてよく知られていますが、寺島文化会館の所蔵品は平安時代の官女の姿で描いたものです。「雪」は『枕草子』が出典で、中宮定子に「香炉峰の雪はいかならむ」と尋ねられて清少納言が白居易の詩の一節を受けて御簾をあげるところです。「月」は石山寺で『源氏物語』を執筆する紫式部。「花」もやはりまた『枕草子』を出典として、清涼殿の縁側に青磁瓶に桜の枝が挿されている情景からはじまり、清少納言が桜の花を中宮定子になぞらえる一節を表したものです。鳥居清長(1752~1815)の「三代目瀬川菊之丞の娘道成寺」(図3)は歌舞伎の道成寺の一場面を描いたもので、下着の振袖の模様が菊之丞を象徴する菊に雛になっています。清長の署名の前に「応需」(もともとに依じて)とあるので、菊之丞の鼻唄が清長に注文して描かせたのでしょう。

7階と8階の2フロアにまたがって華やかな浮世絵が展示される様子はまさに壮観です。春の1日、浮世絵の華やぎをどうぞお楽しみ下さい。

(学芸員 伊藤紫織)



(図3)鳥居清長《三代目瀬川菊之丞の娘道成寺》
天明3(1783)年 財団法人 寺島文化会館蔵

浮世絵花盛り

第一部 溪斎英泉

第二部 肉筆浮世絵 - 寺島文化会館コレクションを中心に

2004(平成16)年4月3日(土) - 5月16日(日)

10:00 - 18:00 金曜日は20:00まで(入館受付は閉館の30分前まで)

【休館日】 毎週月曜日(5月3日は開館)・5月6日

【入館料】 一般 200(160)円

大学・高校生 150(120)円

中・小学生 100(80)円

()内は団体30人以上の料金

「勅使河原蒼風とその周辺」によせて



勅使河原蒼風
《萬木千草》1960年
千葉市美術館蔵

勅使河原蒼風(1900-79)の作品は、いい。

これまで市の広報誌をはじめ、蒼風の作品について紹介する機会が何度かあったが、担当者としては、やはりこの言葉に尽きる。

何がそんなに魅力があるのか？

まず屏風作品に見られる、野性味あふれる躍動感である。殊に、文字を扱った作品では、構成から墨の飛沫にいたるまで、作品そのものが作者の呼吸と一体になっている。そのヴァイタリティーと痛快さ。まるで、『七人の侍』で三船敏郎が演じた菊千代、あるいは打楽器を主にした佐藤勝の映画音楽そのものではないか。蒼風の作品が、日本よりもむしろ海外で受け入れられた理由もわかる。

それだけではない。全体にみなぎる「いのち」(彼は、この言葉を受していた)、生命力でむせかえるような画面も、わずかばかり視点を変えれば、荒涼・懐愴な光景が広がる。生と死のドラマ、それが蒼風の魅力である。

勅使河原蒼風の表現のホームグラウンドは、いけばなだった。これは、今となっては写真でしか見ることができない。この点、今でも評価がまっぴらつに分かれる北大路魯山人(1883-1959)の料理に似ている。魯山人が料理いがいの表現にあれほどのめり込んだ理由も蒼風と同じ理由だろう。自己の表現の本質がモノとして「残らない」ことを否応なく迫られる点、二人は共通しているように思われる。ここから、れいの「一期一会」という悟り澄ました四文字の言葉がそろりと顔を上げ始める。

ところが、そんな古人の訳知り顔の言葉など、このアーティストには無縁としか思えない。永遠ではない自己の表現、その

エッセンスを何とか別の表現に転化できないか、その想いは当然、有限である筈の自己の肉体と精神を意識するに至る。現在遣っている勅使河原蒼風の屏風や彫刻に見られる作品の魅力とは、とどのつまり死から逃れられない人間のドラマである。先程、映画の登場人物に喩えたけれども、その意味ではお釈迦様の手の中の孫悟空である。痛快さと、背中合わせになっている滑稽さと悲哀と -

今回の展覧会は、財団法人草月会のご厚意で展示することが可能になった作品を中心に、約50点を展示するものです。勅使河原蒼風の造形をはじめ、彼の長男としてやはり幅広い表現を手がけた勅使河原宏(1927-2001,こちらは、今年2月に「逝きし芸術家を偲んで」で紹介した作品と同じです)、そしてイサム・ノグチ(1904-88)が1950年代来日した折に制作した作品などが中心となっています。

他にも、現代美術にご興味のある方には瀧口修造(1903-79)や三木富雄(1937-78)の作品、古美術に興味がある方には江戸期に制作された俵屋宗達の軸や立華図屏風などをご紹介する予定です。

しかし、本展が「勅使河原蒼風」の世界であることをお忘れなく。今回の展示作品は、彼の宇宙のほんのごくわずかな部分の紹介でしかありません。
(学芸員 葦科英也)

勅使河原蒼風とその周辺展

2004(平成16)年5月22日(土) - 7月4日(日)

10:00 - 18:00 金曜日は20:00まで(入館受付は閉館の30分前まで)

【休館日】 毎週月曜日

【入館料】 一般 200(160)円

大学・高校生 150(120)円

中・小学生 100(80)円 ()内は団体30人以上の料金

「ピカソ、マティスと20世紀の画家たち」展のチケットをお持ちの方は無料

藍と暮らす人々 トン族・ミャオ族・タイ族 太陽と精霊の布 - 中国・東南アジアの染織

中国南部から東南アジアの北部地域に暮らす多くの少数民族は、今なお自らの伝統的な生活様式を守って暮らしています。中でも中国貴州省の山間部を中心に居住するトン族は、藍を基調とした染、高度な織、緻密な刺繍やブリーツ加工による美しい染織品を作る民族として注目されます。各家庭に藍の染料を生葉から発酵させて作る藍瓶があり、染・織・刺繍などのすべての工程を母娘の手が行うというもので、生活そのものの中から生まれたものでありながら、非常に洗練された美意識を持っているのです。

この展覧会では、これまで紹介される機会のほとんどなかったトン族の染織品を中心に、周辺民族であるミャオ族、タイ族などの染織品も展示、その驚異的ともいえる究極の手技の美を紹介します。タイ在住の染織家瀧澤久仁子氏のコレクションより選りすぐられた約230点の染織品による展観です。

藍と暮らす人々 トン族・ミャオ族・タイ族

太陽と精霊の布 - 中国・東南アジアの染織

2004年 7月13日(火) - 8月29日(日)

休館日 月曜日 但し7月19日(月・祝)開館、7月20日(火)休館

10:00 - 18:00 金曜日は20:00まで(入館受付は閉館の30分前まで)

観覧料 一般 800円(640円)

大学・高校生 560円(450円)

中・小学生 無料

* ()内は団体30人以上および前売料金



ミャオ族 女性の衣装 部分(刺繍)

おわりははじまり

円をめぐる6つのおはなし
7月17日(土)-8月22日(日)



リチャード・ロング
《水石の輪》
1996年 寄託作品

「円」と聞いて思い浮かべるのは、永遠に続いてゆく穏やかな世界、それとも、見る人の目を惑わす力強い渦巻き模様でしょうか。本展では、円から連想される6つのイメージをめぐる様々な作品を紹介します。小中学生や美術館は初めてという方を主な対象とする展覧会です。

伝説の浮世絵開祖

岩佐又兵衛

10月9日(土)-11月23日(火)



岩佐又兵衛は、江戸時代の初めに京都、福井、江戸で活躍し、「うきよ又兵衛」と呼ばれて広く知られた絵師です。独特の作風で一世を風靡し、のちに浮世絵の開祖であるとして伝説的な存在となりました。又兵衛の画業の全容と伝説化の様相をたどります。

岩佐又兵衛《弄玉仙図》
江戸時代 財団法人 寺島文化会館蔵

日本の版画 1931-1940

棟方志功登場

8月31日(火)-10月3日(日)



棟方志功《二菩薩釈迦十大弟子》
1939年 千葉市美術館蔵

1930年代、戦争へと傾斜してゆくこの時代に、日本の版画はどのような様相を呈したのでしょうか。版木の魂をえぐり出すような作品で衝撃的なデビューを飾った棟方志功、変幻自在なイメージを刻んだ鬼才谷中安規、鋭敏な感性で都市を描いた藤牧義夫などの作品約300点から、それぞれの作家の栄光や苦悩の軌跡をご覧ください。

京の陶芸 - 伝統と革新

清水六兵衛歴代展

11月30日(火)-1月23日(日)



六代清水六兵衛《古稀彩秋映花瓶》
1972年 個人蔵

初代六兵衛が京都・五条坂の地に窯を開いて以来約230年、清水(きよみず)家は伝統を守りながら、絶えず新しい息吹を京焼に吹き込んでいます。本展では初代から現在の八代六兵衛までの代表作をはじめ、清水九兵衛として国際的に活躍する七代の彫刻、そして富岡鐵齋や神坂雪佳など交流のあった画家の作品によって清水家歴代の活動を多角的にご紹介します。

モノクローム絵画の魅力

桑山忠明・村上友晴を中心に

9月7日(火)-11月23日(火)



桑山忠明《Silver》
1974年 千葉市美術館蔵

モノクローム絵画。単一の色彩が塗られているだけで何も描かれていない極めてシンプルな絵画です。一見すると無表情なモノクローム絵画は、実は非常に繊細かつ静謐で、独特の美しさをそなえています。本展では、千葉市美術館の所蔵品から桑山忠明と村上友晴を中心に作品を選び、作家毎に多彩で豊かな表情を見せるモノクローム絵画の魅力を探ります。

房総ゆかりの美術

第一部 遠藤健郎絵画展 / 第二部 深澤幸雄銅版画展

1月29日(土)-2月27日(日)



第一部は戦後日本の風俗を風刺しブラックユーモアを交えて描出した遠藤健郎の作品150点余りを展示する、一大回顧展です。1974年の『ある風俗絵巻』で、日本漫画家協会賞特別賞を受賞した千葉市ゆかりの作家です。



第二部は、1955年、千葉市の国松画廊で初めて個展を開いて以来50年、戦後を代表する版画家である深澤幸雄の銅版画を、初期から現代まで150点余りで通覧します。

上：遠藤健郎《赤い襟巻の少女》
1945年頃 千葉市美術館蔵
下：深澤幸雄《春と修羅 より》
《ロマンス》 1986年 千葉市美術館蔵

展示室で考える

海を越えて

展覧会の意義や魅力を増すために、海外の美術館から作品をお借りすることがあります。来館者に喜んでいただけることでもあり、重要な作品であれば予算の許される限り交渉をしています。

ただし海外との出品交渉の仕事量については相当の覚悟をしなければなりません。担当者との交渉の後、正式な出品願いから承諾を得るまでもいろいろありますが、本当の大変さはそれからです。組織が日本よりはるかに大きい海外の美術館では、専門の部門も多岐に分かれています。貸し出し前の修復や額装をし、コンディションレポートを作成する保存修復課、借用の契約や輸送の手続きなどをする貸し出しを専門とする課、写真撮影や写真の貸し出しを専門とする課など、一件の貸し出しに関わる交渉相手は多数になります。

さらにクーリエといって先方のスタッフが作品に随行してくる場合が多く、その方と連絡を取りながら、作品と一緒に乗る飛行機や迎え、ホテルの手配、時には仕事のない日のための観光案内まですることがあります。当館のような規模の美術館では、それらのほとんどの部分を担当一人で手配することになります。朝パソコンを立ち上げると英文のメールがずらっと並び閉口することもあります。メールがなかった時代は一体どうしていたのか思い出せないほど、最近では仕事のテンポが早くなりました。

残念ながら2001年9月に米国ニューヨークで起きたテロ以降は、海外からの美術品の借用をめぐる状況は厳しいものになったと言えます。出品に関わる保険料は上がり、内容としても、例えば輸送中のテロばかりでなく、美術館に作品が保管されている間のテロに関する条項を設けよという条件がついたこともありました。また複数の作品であれば飛行機も何便かに分けて乗せるように求められる場合もあるようです。身近にテロが起こるなどと現実的には想像できませんが、昨今の世情にはやはり不安をおぼえることがあります。

今では「海を越えて」というような表現もなじまなくなり世界は身近になりました。便利になり、コミュニケーションもとれてきたはずなのに、なぜこんなに忙しく、世界は諍いが多くなってしまったのかと思います。美術を鑑賞する楽しみも、平和でゆとりがあればこそとつくづく思います。(ta.)

「美術館ニュース」編集後記

千葉市美術館ニュース「C'n」もついにこの号で30号を迎えることになりました。第1号が1997年の春だったので、7年の歳月になります。大きく編集方針を変えることなく、今回無事に30号をお送りすることが出来ました。これまでの「C'n」は美術館10階にある図書室でご覧いただけます。

これまでの積み重ねの上に、これからも美術館から新たな話題をこの「C'n」より発信していきたいと思えます。年4回のペースではありますが、これからも「C'n」をよろしくお願い致します。

連続講座のお知らせ

千葉市美術館では、コレクション理解のための市民美術講座を10回に渡って開催致します。ふるってご参加下さい。

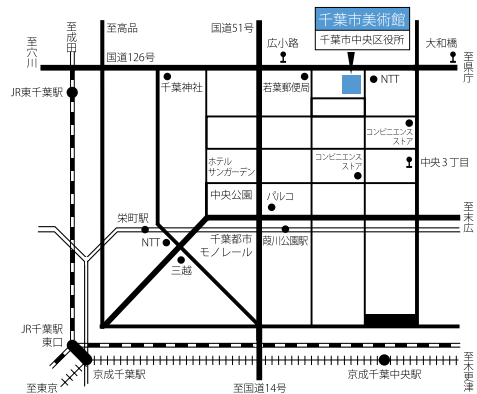
第1回 5月29日(土)午後2時より
「美術館のコレクションについて」
講師:小林忠(千葉市美術館館長)

第2回 6月27日(日)午後2時より
「岩佐又兵衛と風俗画の展開」
講師:松尾知子(千葉市美術館学芸員)

第3回 7月24日(土)午後2時より
「菱川師宣と初期浮世絵」
講師:浅野秀剛(千葉市美術館学芸課長)

いずれの回も定員150人先着順 入場無料

第4回以降の予定は、随時お知らせします。



JR千葉駅東口より徒歩約15分 / 千葉都市モノレール興行前方面行「霞川公園駅」下車徒歩5分 / バスのりば①より大学病院行、南矢作行にて「中央3丁目」下車徒歩2分 / JR千葉駅へは東京駅地下ホームから総武線快速千葉方面行で約42分
京成千葉中央駅東口より徒歩約10分
東京方面から車では京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ貝塚IC下車国道51号を千葉市街方面へ約3km 広小路交差点近く 地下に駐車場有り



【編集・発行】 千葉市美術館 〒260-8733 千葉県千葉市中央区中央3-10-8
TEL. 043-221-2311 FAX. 043-221-2316
Chiba City Museum of Art
3-10-8 Chuo, Chuo-ku, Chiba 260-8733 Japan

【発行日】 2004年4月30日

【印刷】 株式会社プリンテックメディア